

津軽海峡横断泳を新たな名物に

津軽海峡横断泳遠泳・交流アドバイザー

昨年度締結した北海道福島町との包括連携協定を契機として青函圏のより一層の交流を図るため、青函交流の活動実績を持つ2名を5月28日(火)にアドバイザーとして委嘱しました。

オーシャンズ・セブンの1つである津軽海峡の素晴らしさを世界に知ってもらうために津軽海峡で遠泳のサポートを2011年度から実施している石井晴幸さんを津軽海峡『遠泳』アドバイザーに、1967年に世界で初めて津軽海峡を泳いで渡った福島町出身の海洋冒険家である中島正一氏の研究を行っていて、1994年には、津軽海峡の遠泳に成功した青森県出身の尾迫千恵子氏の遠泳監督を行っていた宇田快さんを津軽海峡『交流』アドバイザーに委嘱しました。

町長は「多くの経験・知識をお借りして、国内唯一のオーシャンズ・セブンである津軽海峡と、遠泳の始発と終点にあたる中泊と福島町を盛り上げていきたい」と話しました。

津軽海峡遠泳・交流アドバイザー委嘱状交付式

津軽海峡『交流』アドバイザー
宇田 快さん津軽海峡『遠泳』アドバイザー
石井 晴幸さん

明るい犯罪のない社会に

社会を明るくする運動
メッセージ伝達式

犯罪や非行防止などを目的にそれぞれが力を合わせて行われる「社会を明るくする運動」。7月1日(月)に町の保護司会と更生保護女性会が参加し、役場玄関前でメッセージ伝達式が行われました。

伝達式では、法務大臣からのメッセージと県知事からのメッセージを手渡し、町の協力を要請しました。一行は町内パレードで学校や事務所などを訪れ、運動の啓発活動を行いました。

この運動は「更生保護の日」である7月1日から1か月間を強調・再犯防止啓発月間と位置付けて行われています。

